

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 はっぴいち		
○保護者評価実施期間	R6年 12月 28日		R7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	R6年 12月 28日		R7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者からの相談や申し入れについて迅速に対応し、懸念点を少しでも払しょくできるように留意していること。	相談や申し入れに対しては、即時職員間で共有し、可能な限り迅速に対応することができるようにしている。保護者との相談により、解決したと思われる事案に関しても事後支援を行い、新たな課題が発生していないか確認している。	潜在的なニーズにいち早く気付くことで、保護者からの相談・申し入れに更に迅速な対応が可能となると考える。
2	利用者の様子について日々共有が行えていること。	保護者とはLINE等の媒体で常時連絡が可能のため、支援中に写真や動画などを利用して、即時様子を共有することができるようになってきている。そのため、利用者の様子を具体的に保護者と共有することが可能となっている。	現在、日々の記録として活用している写真や動画のデータを保護者と共有する方法を検討している。
3	系列法人内の保育園との連携を中心に、利用者同士に留まらない他者との交流を持つことができること。	利用者以外の子どもや他事業所が開催するイベントなどに定期的に参加している。	現状では、不定期での交流となっているので、定期的な交流となるよう他機関との関係構築に努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族支援について、特に保護者同士のピア・サポートの会など、利用者への直接の支援以外の支援体制を整備すること。	開所後間もないこともあり、利用者の支援体制を構築することに重きを置いていたため、少しずつ支援体制が整備されてきているため、今後は家族支援のためのイベント等の開催も検討していきたい。	各家庭にどのようなニーズがあるか検討した上で、ペアトレ会や保護者会などを開催できるよう検討する。特にペアレント・トレーニングに関しては需要が高いと考えられるので、職員も研修を受講する。
2	事業所内での体系的な研修体制を整備すること。	開所後間もないこともあり、利用者の支援体制を構築することに重きを置いており、研修については個人の自助努力に一任されていたため、少しずつ支援体制が整備されてきているため、支援の質向上を目的とした体系的な事業所内研修体制の構築を検討したい。	職員ごとに経験も異なるので、初歩的な内容から応用的な内容まで幅広く学べるようにプログラムを立案する。特に経験の浅い職員が安心して支援に当たれるようにフォロー体制を充実させる。
3	地域との相互協力の下で、地域に開かれた支援を行うこと。	系列法人内の保育園や他の福祉サービスとの連携などは行っているが、地域住民等との交流などは行っていない状況。地域との関わりの持てるイベントや活動等を開催できていないため。	地域住民の事業所に対する理解を深めることが、利用者たちの今後の地域での生活の助けになると考えるので、積極的に交流が行えるよう活動等を検討していく。イベント等の開催でなくても、「事業所便り」などで事業所の日々の様子を伝えることも効果的と考える。